

特集

まち・ひと・くらしを守る

平成30年度

塩竈市総合防災訓練

6月12日の「県民防災の日」に合わせ、市・防災関係機関および地域住民が一体となった防災訓練を実施し、「東日本大震災」を風化させないよう、防災体制の確立と防災意識の高揚を図ります。

市民の皆さん、町内会、自主防災組織の皆さんの参加、協力をお願いします。

☎ 市民安全課防災係 ☎ 3551-6491



と き 6月10日(日) 9:00~11:30

メイン会場 玉川小学校

断水時でも使用可能なマンホールトイレや給水車の水を貯めて効率よく給水ができる貯水槽の設置、炊き出し訓練などを行います。また、特殊車両や消防団による資機材の展示もあります。

そのほかの会場

市役所本庁舎(災害対策本部)、各指定避難所(市内小中学校等 全20カ所)など

発災想定

平成30年6月10日 午後5時、宮城県沖(三陸沖)を震源とするマグニチュード9.0と推定される海洋型地震が発生。震度6強を観測し多数の家屋が倒壊、ライフラインが被害を受け、市内全域が停電。大津波警報が発表。



実際の災害と間違いのないよう  
注意ください!

防災行政無線・FMラジオ(FM78.1MHz)で訓練放送を行います

市内78カ所に設置する防災行政無線スピーカーおよびFMベイエリア(FM78.1MHz)から、サイレンと音声による訓練放送を行います。

携帯電話・スマートフォンに緊急速報メールを配信します

本市全域を対象に緊急速報メール(エリアメール)を数回配信します。このメールを受信すると、専用の着信音が流れます。なお、電波の都合上、近隣の市町でも配信されることがあります。

訓練内容

広報、避難所開設運営、緊急招集伝達、町内会・自主防災組織による共助訓練、小中学校(児童生徒)避難訓練など、14項目

◇市内全域の停電を想定した訓練

信号機の停止や電話の混乱による通信手段の断絶といった停電時の不便や通電火災の脅威を再認識することを主な目的とします。また、非常持出品の事前準備および避難時の携行、指定避難所までの避難経路や行動を再確認します。

◇避難所開設運営訓練(市民参加型)

避難いただいた市民の皆さんに、停電・夜間に備えて各避難所に備蓄している発電機や投光器の設置・稼働などを行っていただく訓練です。



災害が発生した場合にあわてず行動できるよう、訓練に参加しましょう!

▲メイン会場では、マンホールトイレの設置訓練を行います



# もしもの災害に備えて 日ごろから心掛けましょう

## ポイント1 避難場所や安否確認方法の確認

家族が別々の場所にいるときに災害が発生した場合でも安否が確認できるよう、家族がどこに避難するかや連絡方法などを話し合っておきましょう。災害発生時は電話回線が混雑し、通話やメッセージの送受信などができなくなる可能性があります。その際は災害用伝言ダイヤルに電話をかけて、伝言を残すことができます。



### 災害用伝言ダイヤル

☎「171(いない)」

※毎月1日と15日などに体験利用ができます。なお、NTT東日本の電話回線からは無料で利用できますが、携帯電話などからかける場合は通話料が発生します。

## ポイント2 食料・飲料水などの確認

災害発生直後は道路が寸断され、支援物資が届くまで時間がかかることが考えられます。各家庭で3日分以上の飲料水(1人1日3リットルが目安)と食料を備えておきましょう。



### 「ローリングストック」で無駄なく備蓄

お菓子や缶詰、インスタント食品など、日常的に消費する保存性の良い食料品を少し多めに買い置きし、食べて減った分を買い足すことで常に一定の食糧を用意しておくことを「ローリングストック」と言います。そのことにより、普段食べている食糧を無駄なく備蓄することができます。

## ポイント3 お薬手帳を忘れずに

災害が発生し、やむを得ずかかりつけではない医療機関を受診し薬を処方される場合、普段使っている薬の種類や量などが分からないと自分に合った薬を受け取ることが難しくなります。避難の際は持病の薬と合わせ、普段使用している薬などの情報が記録されている「お薬手帳」を持参しましょう。



日ごろから災害への備えを万全にしましょう!

### 互いに協力し合う共助の精神で

今年、ブライトヒルズ町内会(庚塚)では市内で82番目となる自主防災組織を結成しました。自主防災組織は「自分たちの地域は自分たちで守る」という精神で自主的に結成される組織です。大規模な災害が発生した場合は、国や県、市の救援(公助)が十分に届くまでには時間がかかりますので、地域の住民がお互いに助け合って災害に立ち向かう必要があります。

早くから自主防災組織を結成していた地域では、あらかじめ災害が発生したときの対応などを話し合って決め、日ごろから訓練をしていました。そのおかげで、東日本大震災の際は町内会員の安否確認が迅速にできたり、会員同士が互いに助け合っただけで、難しかったりすることができ、非常に役立ったと伺っています。当会では地域の危険な場所や避難ルートを明らかにすることを目的に、町内会会員と消防署や市役所の方が実際に地域を回ってチェックし、防災マップの作成を行っています。

万一、災害が発生したら当会においても共助の精神で助け合いたいと考えています。



ブライトヒルズ町内会  
自主防災会  
会長 松岡 さん